

令和2年度

教育委員会の事務の点検及び
評価に関する報告書

(令和元年度の事業実績)

令和2年9月

田舎館村教育委員会

はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部が改正（平成27年4月1日施行）され、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならないこととされた。

そこで、この報告書は、教育委員会が令和元年度の教育方針に基づいて、学校教育・社会教育・社会体育・文化行政の各領域の重点ごとに掲げた主要施策への取り組み状況について点検及び評価を行ったものである。

このことは、本報告書を議会に提出するとともに、公表することによって、村民への説明責任を果たし、村民に信頼される教育行政を推進するものである。

また、今後、点検及び評価の在り方の工夫に努めるとともに、結果をこれからの施策等に反映させ、継続的に事業の改善を図っていく必要がある。そのためにも、より一層の御理解と御協力、御支援を賜りたく心から切に願うものである。

目 的

事務の点検・評価は、同法第26条の規定に基づき、教育委員会が教育に関する事務の管理及び執行の状況を点検・評価することで、効果的な教育行政の推進に資するとともに、議会への提出と公表を行い、住民に対する説明責任を果たすことを目的とする。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

1 教育委員会の活動状況	p.3
(1) 教育委員の職務権限	p.3
(2) 田舎館村教育委員会教育委員名簿	p.3
(3) 教育委員会会議の開催状況と審議内容	p.4
(4) 教育委員会会議以外の活動内容	p.5
2 田舎館村教育委員会における点検・評価の取り組み	p.7
(1) 令和元年度教育方針	p.7
(2) 重点施策	p.7
(3) 良好な教育環境づくりの推進	p.7
(4) 点検・評価の対象及び実施方法	p.7
(5) 評価の基準	p.7
(6) 田舎館村教育方針体系図	p.8
3 令和元年度（平成31年4月～令和2年3月）重点施策の点検・評価	p.9
(1) 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進	p.9
〈田舎館小学校〉	p.9
〈田舎館中学校〉	p.22
(2) 一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育の推進	p.32
(3) 健やかで活力に満ちた生涯スポーツ及び競技スポーツの振興	p.38
(4) 未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用	p.40
(5) 良好な教育環境づくりの推進	p.42
ア 学校教育環境の充実と教育保障	p.42
イ 社会教育施設の充実	p.46
ウ 国・県・村指定文化財	p.47
(6) 食育の推進	p.48
4 令和元年度社会教育関係事業実績	p.49
(1) 家庭教育	p.49
(2) 青少年教育	p.49
(3) 成人教育	p.50
(4) 高齢者教育（白寿大学）	p.50
(5) 社会体育（生涯スポーツ）	p.51
(6) 文化活動及び保護、活用事業	p.52
(7) 地域づくり事業	p.52
(8) その他（村内諸団体の開催事業）	p.52

1 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員の職務権限

教育委員会は、政治的中立性を維持しつつ、安全性・継続性を確保して教育行政を管理執行するため、首長から独立した合議体の執行機関として設置されている。

田舎館村教育委員会は、村長が議会の同意を得て任命した5人の委員で組織されている。

《主な職務権限》

- ア 教育に関する事務の管理・執行に関すること及び主要な教育施策の確立並びに変更と実施に関すること。
- イ 規則・訓令の制定及び改廃に関すること。
- ウ 教育長・職員の任免、分限及び廃止に関すること。
- エ 学校その他の教育機関の設置及び廃止に関すること。
- オ 通学区域の設定及び変更に関すること。
- カ 教育予算その他議会の議決を経るべき事件の議案について、意見を申し出ることに関すること。
- キ 教科用図書の採択に関すること。
- ク 付属機関の委員の任免、委嘱及び解職に関すること。
- ケ 教育に関する事務管理、執行状況の点検及び評価に関すること。

(2) 田舎館村教育委員会教育委員名簿（令和2年3月31日現在）

職 名	氏 名	就任年月日	備 考
教 育 長	金 枝 尚 明	平成25年11月15日 平成29年11月15日	教育長就任 教育長再任
教 育 長 職務代理者	佐 野 ケイ子	平成27年10月 3日 平成27年10月 5日 平成29年11年15日	教育委員長就任 教育長職務代理者就任
委 員	福 士 純 子	平成29年 7月13日	
委 員	工 藤 公 彦	平成29年 7月13日	
委 員	浅 利 守	平成26年10月 1日 平成29年 7月13日 平成30年10月 1日	教育委員長職務代行者就任 教育委員再任

- ア 教育長は、村長が議会の同意を得て任命する。
- イ 教育長は、教育委員会の権限に属するすべての教育行政事務の具体的な執行を行う。この教育長の総括の下には、事務の処理を行う組織として事務局があり、教育課《学務係、学校給食係、社会教育係、生涯学習係、文化財係》が設置されている。

(3) 教育委員会会議の開催状況と審議内容

令和元年度は、会議が8回開催され、下表の議案について審議を行なった。

回	開催期日	種別	内容	審議結果
1	7月18日	議案第13号 報告第3号 報告第4号	令和2年度使用小学校用教科用図書について 専決処分した事項の報告及び承認を求めることについて 入札結果について	原案可決
2	8月23日	議案第14号	令和元年度教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書について	原案可決
3	10月7日	議案第15号 報告第5号	令和元年度田舎館村私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱について 入札結果について	原案可決
4	11月18日	議案第16号	田舎館村教育委員会表彰規則の運用要綱の一部を改正する要綱について	原案可決
5	12月23日	議案第17号 報告第6号	令和2年度田舎館村奨学生候補者の決定について 入札結果について	原案可決
6	1月16日	議案第1号 議案第2号	令和元年度教育委員会表彰について 改訂版「田舎館村教育大綱」(案)について	原案可決
7	2月14日	議案第3号 議案第4号 議案第5号 報告第1号 協議事項	令和2年度田舎館村教育方針について 県費負担校長及び教頭人事について 部活動の指針について 令和2年度予算内示について 村内小中学校の夏季休業中の一斉閉庁について	原案可決
8	3月18日	議案第6号 議案第7号 議案第8号 報告第2号	田舎館村社会教育委員の委嘱について 田舎館村教育委員会事務局の人事について 田舎館村「コミュニティ推進事業」実施要綱の改正について 令和2年度社会教育行政等の方針と重点について	原案可決

(4) 教育委員会会議以外の活動内容

ア 村議会への出席

教育長が本会議に出席し、一般質問について必要に応じて答弁を行っている。

イ 各協議会への出席

青森県市町村教育委員会連絡協議会及び青森県町村教育長協議会並びに南地方市町村教育委員会連絡協議会等の会員として役員会や定期総会に出席し、教育事業に関する要望や情報収集など、学校教育及び社会教育の施策に係る活動を行っている。

4月 1日	中南管内新規採用教職員辞令交付式	弘前市
4月 4日	ふるさとの教育研修	田舎館村
4月 5日	南地方教育委員会連絡協議会総会	平川市
4月10日	青森県町村教育長協議会定期総会・研修会	青森市
〃	市町村教育委員会教育長会議	青森市
4月12日	全国町村教育長会第1回理事会	東京都
4月23日	南地方学校教育振興会全員集会	平川市
4月26日	青森県市町村教育委員会連絡協議会教育長会代表者会議 ・青森県市町村教育委員会連絡協議会理事会	青森市
5月 8日	第2回津軽南地区教科用図書採択協議会	黒石市
5月 9日 ～10日	全国町村教育長会定期総会・研究大会	東京都
5月14日	第1回青森県教科用図書選定審議会	青森市
5月15日	市町村教育委員会連絡協議会教育長会定期総会	青森市
5月16日 ～17日	東北町村教育長連絡協議会定期総会・研究大会	秋田県
5月24日	青森県市町村教育委員会連絡協議会定時総会	青森市
5月28日	第3回津軽南地区教科用図書採択協議会	黒石市
6月 7日	中南地区連携推進協議会	弘前市
6月11日	第2回青森県教科用図書選定審議会	青森市
6月25日	中南地区連携推進協議会	弘前市
7月10日	第4回津軽南地区教科用図書採択協議会	黒石市
8月19日	南地方市町村教育委員会連絡協議会第1回教育長会議	平川市
〃	第5回津軽南地区教科用図書採択協議会	平川市
8月22日	青森県町村教育長協議会第1回役員会	青森市
9月27日	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	藤崎町
10月11日	全国町村教育長会第2回理事会	東京都
10月31日	健康教育田舎館中学校公開研究会	田舎館村
11月 6日	南地方市町村教育委員会連絡協議会第2回教育長会議 ・中弘南黒平教育委員会研修会	弘前市

11月 7日	東北町村教育長連絡協議会役員会	秋田県
11月 8日	青森県市町村教育委員会教育長会議	青森市
11月15日	南地方小中学校校長会合同研修会	弘前市
11月26日	インクルーシブ教育システム構築研修会	弘前市
12月18日	中弘南黒平教育長会議	平川市
12月25日	第1回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
1月 9日	第2回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
1月31日	第3回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
2月 7日	第4回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
2月12日	青森県町村教育長協議会第2回役員会・研修会	青森市
2月14日	第5回管内教育長会議・人事異動事情聴取	弘前市
3月23日	南地方市町村教育委員会連絡協議会役員会・ 南地方市町村教育委員会連絡協議会教育長会議	平川市
〃	第1回津軽南地区教科用図書採択協議会	平川市

ウ 学校訪問

年2回村立小・中学校を訪問して授業を参観するとともに、教育環境整備の現状把握及び児童・生徒の教育活動の実態を校長等から説明を受け、学校教育の現状を把握する。

第1回目	7月10日	授業参観及び学校教育目標等教育活動の推進状況と経営内容を把握
第2回目	2月 5日	授業参観及び学校教育活動の推進評価及び課題把握

エ 学校・教育委員会・村の行事等への出席

学校・教育委員会・村が主催する行事に出席し、学校教育及び社会教育の活動内容を把握し、それぞれの教育活動の推進状況を実際に参加して確認する。

学校関係	入学式・卒業式・運動会・文化祭・小中音楽交流会
教育委員会関係	成人式・村民体育レクリエーション大会・教育委員会表彰
村	新年互礼会など

2 田舎館村教育委員会における点検・評価の取り組み

(1) 令和元年度教育方針

田舎館村教育委員会は、豊かな心と郷土に対する誇りを持ち、健康で創造性に富み、広い視野を持って変化の著しい社会に主体的に対応できる村民の育成を目指した教育の推進に努める。

特に北方稲作文化繁栄の地で、輝かしい歴史と伝統を築いてきた先人の偉大な足跡を誇りとし、安全・安心で良好な教育環境の整備を進め、関係諸団体との緊密な連携を図りながら村民憲章の日常化を目指すとともに、教育は人づくりの視点に立って、生きる力と夢はぐくむ学校教育、一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育、健やかで活力に満ちた生涯スポーツの振興、未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用に努め、充実した田舎館村の教育を推進する。

(2) 重点施策

- ア 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進
- イ 一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育の推進
- ウ 健やかで活力に満ちた生涯スポーツ及び競技スポーツの振興
- エ 未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用

(3) 良好な教育環境づくりの推進

- ア 学校教育施設の充実
- イ 社会教育施設の充実
- ウ 学校給食の充実

(4) 点検・評価の対象及び実施方法

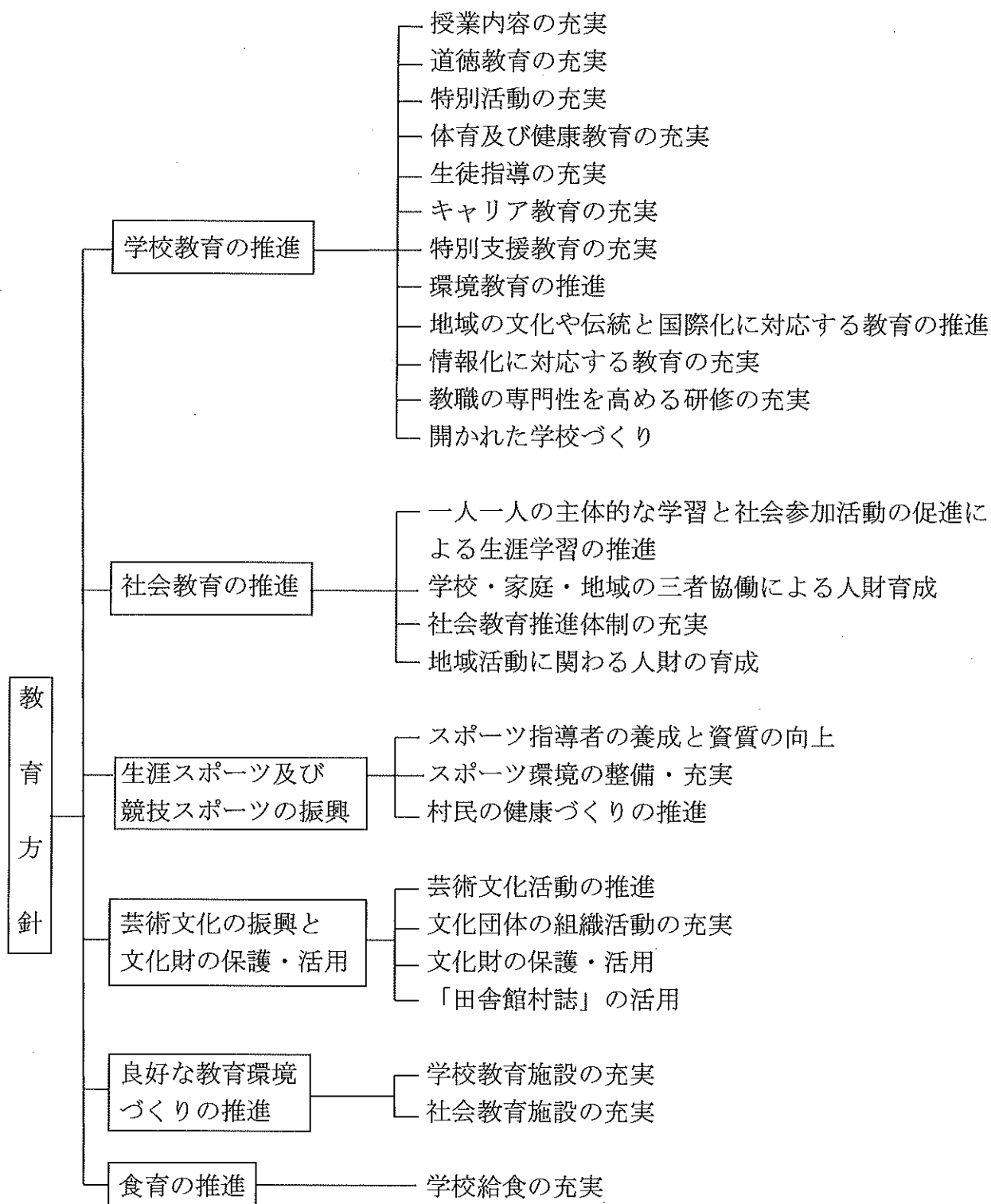
点検評価の対象は、前年度（平成30年度）に管理及び執行した事務のうち田舎館村教育方針に基づく各事業を教育委員会が自己評価した。達成度については、A～Eの5段階で評価を行った。

なお、事業の内容と性格によっては、成果の判断が困難なものや達成状況の把握がしづらいものもあったが、事業が及ぼす効果ではなく、計画された事業をどの程度実施したかに基づいて各事業の評価を行った。

(5) 評価の基準

- | | | |
|-----|---------------|-------------------------|
| A段階 | 十分達成された | 〈80～100%の成果をあげることができた〉 |
| B段階 | 概ね達成された | 〈60～75%程度の成果をあげることができた〉 |
| C段階 | やや達成された | 〈半分程度の成果をあげることができた〉 |
| D段階 | 達成に向けて努力している | 〈動き始めることができた〉 |
| E段階 | 取り組むことができなかった | |

(6) 田舎館村教育方針体系図



3 令和元年度重点施策の点検・評価

(1) 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進

〈田舎館小学校〉

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 授業内容 の充実	主体的に考え、対話を通して相手の考えを深く理解し、自分の考えを論理的に言えるような言語活動の充実を図るとともに、それに伴った指導計画等の整備に努める。	1 主体的に考え、対話を通して理解を深め、自分の考えを論理的に表現できるような言語活動を位置づけた授業を目指した校内研修を実施した。 2 学習指導要領改訂に伴い、年間指導計画を見直した。	対話を重視した言語活動を位置づけた授業を展開したことで、互いの考えを理解することにつながった。今後は、自分の考えを論理的に表現できる授業を構築していくことが課題である。 言語活動の充実のために、年間指導計画を見直し、整備することに努めた。	B
	確かな学力を身に付けることができるよう基礎的・基本的内容をしっかりと押さえ、学習の仕方と一人学びのできる指導の工夫に努める。	1 支援を要する児童の対応や学力差が大きい算数や国語に対応するために支援員を効果的に配置した。 2 家庭学習の進め方を全学年に配布し、主体的に学ぶことができるように、保護者に活用を促した。	問題行動が減少し、集中して学習に取り組める児童が増えた。また、学習でわからないところもすぐに相談できるようになり、学習への意欲も高まった。 家庭学習の進め方について保護者と共有することで、宿題等に主体的に取り組む習慣形成につながった。	A
	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向けた教材の工夫を図り、個に応じた指導に努める。	1 学習のサポートを厚くするために、支援員とTTの先生方を学級に配置し複数による指導に取り組んだ。 2 ICT機器を授業内で積極的に活用した。	より個に応じた指導ができ、安全に楽しく授業を行うことができた。 児童の集中力が高まり、一人一人が興味をもって学習に向かうようになった。	A
	様々な体験活動をと おして、自主性や自立	1 校外学習で児童に活動のめあてをもたせ、	児童の主体的な活動を促し、自分からやっという	A

	心の助長を図り、問題を解決する力を身に付けることができる指導の工夫に努める。	様々な体験活動を実践した。 2 5年生の自然体験教室と6年生の修学旅行を実施した。	いう自立的な行動がみられるようになった。 宿泊を伴った様々な活動を通して、自主性や自立心を育み、よりよく生きることについて考えさせることができた。また、5・6年生以外の学年でも、自主性や自立心を育成できるような体験学習を企画してきた。	
	学校教育図書やICTなどを活用し、子どもの学びを支援する学習環境の充実に努める。	1 辞書やICT機器をすぐに活用できるような環境を整備した。	ICT機器を日常的に活用するクラスが多くなり、より分かりやすい授業を展開できた。	A
2 道徳教育 の充実	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会などの実生活に生かし、豊かな心と広い視野を育む道徳教育の指導体制と全体計画の整備・充実に努める。	1 特別の教科 道徳の時間を中心に据え、教育活動全体を通しての道徳教育を推進した。 2 「いのちの学習」を年に1回だが、参観日に全学年で実施した。 3 学校だより等で保護者への啓発活動を積極的に行った。	道徳に関する別様を作成するにあたって、主な学校行事や特別活動、各教科と関連したものを一覧として、教育活動全体の中で道徳教育を行っていこうとする意識を高めることができた。 参観日に「いのちの学習」を行うことで、学校の取組を理解してもらい、生命尊重の大切さを一緒に確認する場となった。 学校だよりや学年・学級通信で子どもたちの活躍や望ましい姿を紹介することで、豊かな心を育むことにつながった。	A

	友情、思いやり、協調性がもてるような道徳的实践力を高め、道徳的判断力や心情的実践意欲と態度が身に付く指導に努める。	1 特別の教科 道徳の時間を中心に据え、教育活動全体で道徳教育を推進した。 2 朝読書やお話会を活用して、読み聞かせを実施した。	友だちに優しくしようとする児童が増え、協調性も高まってきている。それを全児童に広げていくのが今後の課題である。 豊かな情操の育成につながった。	B
	子ども一人一人が正しい判断力と公德心を持ち、郷土を愛する心とボランティアの心の育成に努める。	1 1・2年生が田舎館村の社会福祉協議会を訪問し、福祉体験学習を実施した。 2 年に2回、運営委員会が中心となって募金活動を行った。 3 村内の高齢者に運動会への招待状と年賀状を作成した。	村の高齢者や体の不自由な人を大切にしようとする気持ちを持つことができた。 困っている人を助けるために自分ができることは何かについて考える機会となった。あまり興味をもたない児童もいたので、自分自身のこととして考えることができるように指導することが今後の課題である。 相手が喜ぶ招待状や年賀状を作成しよう、思いやりの気持ちを込めて作成することができた。	B
3 特別活動 の充実	様々な集団活動を自主的、実践的に行い、子ども一人一人が集団や自己の生活上の課題解決を図り、集団及び社会での生活や人間関係がより良く築けるように、子どもに必要な資質や能力の育成に努める。	1 各委員会が年間を通して学校の問題点を話し合い、楽しい企画を提案したりした。 2 縦割り班を活用しながら、清掃活動に取り組んだ。	より充実した学校生活にしようとする姿が見られるようになった。 班長がリーダーシップを発揮し、よりよい清掃活動のために改善策を話し合うことができた。	A

	子どもの生き生きとした自主的態度を育てる学級活動やホームルーム活動の推進に努める。	1 児童が自主的に進める活動を盛り込んだ学級活動の年間指導計画を作成した。	1年間を見通した計画にすることで、児童に任せるべき活動を事前に考えることができた。それが児童の自主的な活動につながった。	A
	自治活動を高める児童会活動や生徒会活動を積極的に推進する。	1 年に2回、児童会総会を実施し、各委員会に意見を出し、改善策を話し合うことができた。	よりよい学校にしていこうとする気持ちを高めることができた。	A
	子どもの豊かな個性を伸ばすとともに、仲間同士の触れ合いの場を大切にするクラブ活動や部活動の活性化を目指す。	1 年に7回、仲良く活動できるクラブ活動を実施した。	自分が参加したいクラブに参加し、仲間と協力しながら活動を進めることができた。また、個性伸長の一助として外部講師を活用することで、より専門的な活動を実施できた。	A
	子どもが主役となるような自主的活動による感動の場面や集団への所属感・連帯意識を深めるような学校行事の内容を工夫する。	1 子どもが主役となる運動会や音楽会を実施した。	運動会では、自主的に応援団を組織し、応援団が中心となって連帯意識が高まるような活動を実施できた。また、音楽会では一人一人が輝くような歌唱や演奏になるような内容を構成し実施することができた。	A
4 体育及び健康教育の充実	子ども一人一人が一生涯にわたって運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、子どもの資質や能力の育成及び体力を向上させる体育の推進に努める。	1 体育の導入時に活動の工夫を取り入れた。 2 体力テストの結果を有効に活用した。	体育の導入時に、子どもにとって楽しい運動を取り入れることで、運動に親しむ態度を育成できるようになってきている。 児童の体力を客観的に把握することで、授業の中で改善すべき点を明らかにし、共有することができた。 また、それを踏まえ、全校で改善に向けての活動に取り組むことができた。	A

		3 自主的にマラソンへ取り組めるような工夫をした。	積極的な励ましとマラソンカードの活用によって、自主的なマラソンに取り組む児童が多くなった。	
	健康に関する知識を身に付け、健康な生活ができる積極的態度を育成する。	1 虫歯予防教室を全学年で実施した。 2 食の指導を全学年で実施した。	歯科衛生士を招き、全学年が正しい歯磨きの仕方や虫歯になりやすい食習慣などを学ぶことができた。また、事後のアンケートから、虫歯にならないようにしたいという気持ちをもつことができた。 各学年の発達段階に応じて、栄養バランスの整った食事の重要性や噛むことの必要性を学習することができた。そして、健康を維持するために正しい食生活を送っていききたいという気持ちをもつことができた。今後は、学んだことを家庭でも生かせるような学習を実践していくことが課題である。	B
	正しく安全な情報を自分で判断し、自分の身の安全をしっかりと守ることができる心を育てる。	1 交通安全教室、防犯教室、避難訓練、校外班集体会、登校指導、スクールバスの乗車指導など各種、安全に関する行事を実施した。	身の回りの危険から自分を守る方法を学び、安全に過ごそうとする意識を高めることができた。スクールバスの乗車指導に関しては、繰り返し安全に対する指導を行っていく必要がある。	B
5 生徒指導 の充実	家庭や地域及び関係機関等と連携を図り、問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。	1 夏の民生委員との情報交換会、スクールカウンセラーの活用、警察や児童相談所との連携、村の保健師さんとの情報交換等を行った。	各機関と情報交換を行うことで問題行動の早期対応につなげることができた。	A

		2 年に3回、いじめについてのアンケートを実施した。	保護者と児童にアンケート調査を行い、いじめや問題行動の早期発見に努めた。いじめ等が見つかった場合は、素早く組織的な対応を行った。	
基本的な生活習慣を身に付けさせ、一人一人が持っている良さを認めながら励まし、個性を大切にした生徒指導に努め、協働的指導体制の充実に努める。	1 基本的な生活習慣の定着をめざす学年・学級経営を実施した。	2 年に3回、校内特別支援会議を実施した。	ベル着や挨拶、廊下歩行など、全校が統一した指導となるように、情報と指導方法の共有を図ってきた。それによって児童に生活習慣を身に付けることにつながった。	B
	3 SEL、PBISを推進した。 ※ SEL Social and Emotional Learning ※ PBIS Positive Behavioral Intervention and Support		生徒指導上の問題を抱えている児童に対し、協働的な指導体制を構築することができた。 SELの実施により、基本的な生活習慣を身に付けることと、感情のコントロールができるようになってきた。PBISでは、各場所における望ましい行動を知らせ、よい行動を「いいねカード」で強化することで、よりよい生活習慣が身に付くようになってきた。今年度は、「いいねカード」の内容を簡略化したことで、カードの発行枚数が減ってしまった。そのため、来年度はカードの扱いについて改善が必要である。	
子ども一人一人を大切にした学年・学級経営の充実に努める。	1 自己有用感を高める係活動や集団活動を実施した。	2 連絡・相談体制を充実させた学年会議等を実施した。	児童一人一人が自己有用感や学級への良い所属意識がもてるようになってきた。 学年の会議や情報交換、相談など日常的に行い、連携や協力体制を築くことができ	A

		3 アセスを実施した。	た。 アセスによる情報を分析し、困り感を感じている児童を見つけ、その解決に向けて学年などで話し合い、よりよい関わりを実践できた。	
子どもの内面からの理解に基づいた教育相談の充実に努める。	1 日常的に教育に関する相談を実施した。 2 年に2回、全校児童を対象に教育相談日を設けて実施した。	1 日常的に児童と何でも話せるような雰囲気を学級内につくり出し、小さなことでもすぐに相談できるようになった。 教育相談を通して、困ったことや悩んでいることを見つけたことができた。また、何か問題が発生した場合には、すぐに学年主任や管理職と相談し、情報共有に努めながら、素早い対応を行った。	A	
いじめ行動を積極的に認知し、徹底した組織的解決に努める。	1 年に3回、児童と保護者にいじめに関するアンケート調査を実施し、いじめや問題行動の早期発見に努めた。 2 年に2回、全校児童を対象とした教育相談日を設け、教員と気軽に会話をする中で、児童が困っていることや悩んでいることを発見できるよう指導した。 3 夏休み中に1回、全員の保護者から情報を収集する保護者面談を実施した。	いじめ等が見つかった場合は、すぐに組織的な対応を実施することができた。 何か問題が発生した場合には、すぐに学年主任や管理職と相談し、情報共有に努めながら、素早い対応を実施した。 1学期の児童の状況を互いに状況共有することができた。また、問題行動があった場合はその後がどうなっているかを確認し、その後、問題行動がないかどうかを	A	

			確かめることができた。	
6 キャリア教育の充実	子ども一人一人が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるように、必要な基盤となる資質や能力、態度の育成に努める。	1 キャリア教育の年間指導計画の見直しと実践活動を行った。	年間指導計画を見直すことで、計画的にキャリア教育に取り組むことができた。また、それをもとにキャリア教育を実践することで、児童自身の生き方を考えさせるよい機会となった。今後は、他教科とキャリア教育を関連させた内容も検討していく必要がある。	B
	キャリア教育指導体制を整え、現在及び将来の生き方を考える指導や進路指導の充実に努める。	1 キャリアノートを積極的に活用した。 2 将来の生き方に繋がる授業を実施した。	キャリアノートを積極的に活用することで、自分自身を見つめさせ、将来につなげるような学習を行うことができた。 校外学習や国際交流の授業で出会う講師に、なぜその仕事をしているのかなどの質問をすることで、自分の進路の参考とすることができた。今後は、講師の職種に限定されないような指導内容の改善をしていきたい。	B
	子どもの発達段階に応じた勤労観や職業観の育成に努める。	1 縦割り班清掃などの誰かのために、思いやる心を持って働くことを推進した。	進んで誰かのために働くことや協力することの大切さを学び、年齢に応じた勤労観を育成することができた。	A
7 特別支援教育の充実	全教職員が共通理解しながら、校内特別支援教育体制の充実に努める。	1 校内特別支援会議を年に3回実施した。 2 全職員で特別支援教室の授業を参観した。	学級に在籍する児童で、特別な支援が必要な児童について情報共有し、その解決に向かっての方策を話し合い、指導に生かすことができた。 適切な児童への関わり方や教え方について学ぶことができた。	A

	個別の指導計画及び教育支援計画を作成し、それを活用しながら関係機関と連携を図り支援の充実に努める。	1 個別の支援計画や教育支援計画を作成し、関係機関との連携を図ることができた。	中郷小学校の通級指導教室と連携し、困り感を抱えている児童の困難を軽くするための指導について学ぶことができた。また、進学先の田舎館中学校に指導上の留意点について詳細に引き継ぐことができた。	A
	子ども一人一人の障害の状態や特性を的確に把握し、自立や社会参加ができるよう、適切な指導及び必要な支援に努める。	1 他人とうまく関わるための活動を組み込んだ学習を実施した。 2 通常学級に在籍し、支援を必要とする児童について適切に対処を行った。	他人との関わり方について指導することで、交流学級でも友達と関わるできるようになった。 通常学級に在籍し、特別に支援を要する児童については、支援員と学級担任が協力して支援を行った。しかし、場合によっては、支援が思うようにならないこともあった。	B
	他校や外部団体との交流を図り、共同学習による相互理解の推進に努める。	1 田舎館村学校教育振興会の事業として、小学校と中学校の児童が買い物に出かけ、料理を作る活動を実施した。	中学校と連携した交流学習を行うことで、互いの理解が深まり、楽しい活動となった。	A
8 環境教育 の推進	教科等間の関連を踏まえ、環境にかかわる体験学習の推進に努める。	1 浄水場やクリーンセンターなど環境を守る施設を見学し、職員の話聞いた。 2 全校児童による玄関前のプランターへの花の苗植えやその管理を行った。 3 全校児童による清掃活動を推進した。	各施設で環境を守る活動について学ぶことができた。 きれいな学校を目指し、進んで水やりなどの世話をすることが優しく豊かな心の育成につながった。 学校をきれいにしようとする意識を高めることができた。また、きれいな学校で生活することの気持ち良さ	A

			も体感させることができた。	
	地域の環境保全に主体的に取り組む指導の工夫に努める。	1 環境委員会が中心となって、学校内のごみの分別指導や各家庭にあるプルタブ、使用済み切手、アルミ缶、ペットボトルのキャップの回収を行った。 2 雑紙回収チャレンジ事業への参加を家庭に呼びかけた。 3 年に2回、地域にリサイクル資源回収への協力をお願いした。	日常の学校生活や家庭生活の中で、環境保全につながる活動に取り組むことができた。また、この活動で児童の環境保全の意識も高まった。 各家庭に3Rの意識を高めることができた。 ※ 3R Recycle Reduce Reuse P T A事業の資源回収について、教員や児童も互いに協力することで、環境保全に対する意識の高まりがみられた。今後は、校内において資源の大切さを実感できるような活動を計画・実施していく必要がある。	B
	環境と人間のかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境にかかわる体験活動の充実と指導に努める。	1 4年生が清掃工場へ見学に行き、職員から活動の様子を聞いた。	地域のごみ収集の方法やその処理について、実際の工場を見ながら学ぶことができた。また、ごみを出す際に分別に気を付け、少しでもごみを減らしていくことが必要だという気持ちをもつことができた。今後は、他の学年にも環境に関する意識を高める体験活動を実践していく必要がある。	B

9 地域の文化や伝統と国際化に対応する教育の推進	地域の文化や伝統について理解を深めるとともに、郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育に努める。	1 5年生が遊稲の館で稲作体験を実施した。 2 3年生が県立郷土館による出前授業を体験した。	田植えから稲刈りまでを体験することで地域の米作りに対する苦労や素晴らしさを学ぶことができた。 青森県で使われていた昔の道具や服などについて理解を深め、当時の様子を知ることができた。	A
	諸外国の文化と伝統について関心と理解を深め、国際社会に貢献しようとする心を育成する国際理解教育の推進に努める。	1 ALTとともに協力し、国際理解教育を積極的に推進した。	全学年でALTによる国際科を実施し、諸外国の文化や伝統について理解と関心を深めることができた。	A
	ALT（外国語指導助手）等を活用しながら、外国語教育の充実を図り、外国語を通じて子どものコミュニケーション能力を育成し、異なった文化や習慣を持つ人々との交流を積極的に推進する。	1 ALTとともに話すことを重視した英語学習を推進した。 2 3～6年生が県の国際交流員を招へいし、韓国、台湾、中国、アメリカの文化を学んだ。	ALTの英語の発音に慣れ親しみ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童が多くなった。 異なる文化や習慣を知ることによって各国への理解を深めることができた。	A
10 情報化に対応する教育の充実	情報モラルを含む情報活用能力を身につけることができるよう、情報教育を推進する指導体制の整備と充実に努める。	1 情報教育全体計画を作成し、指導体制の明確化を図った。 2 長期休業前などにネット使用時の情報モラルに関して注意喚起を図った。	IPADや校内Wi-Fiの環境を整備し、その活用の仕方について学ぶことができた。 生徒指導からのお便りなどを使い、ネットを使用する際に注意すべき情報モラルについて指導することができた。	A

	学習指導でのコンピュータによる情報通信技術（ICT）や学校図書館を適切に活用し、子どもの学びを支援する学習環境づくりに努める。	1 パソコンを活用したローマ字学習を実施した。 2 学校図書館を国語や社会などの調べ学習では積極的に活用した。	児童の関心を高めながらローマ字の学習を行うことができた。今後は、授業を展開できるような計画を立てることが課題である。 辞書の使い方や調べ学習の方法を身に付けることができた。	B
	情報通信ネットワーク等を活用した教育の推進に努める。	1 NHK FOR SCHOOL の動画などを授業内で活用した。	動画を活用することで児童の興味や関心を高め、より深い学びにつなげることができた。	A
	家庭や地域と連携しながら情報モラル教育に関する指導の充実に努める。	1 学年・学級通信、生徒指導のお便り、参観日の懇談などで情報モラルについて協力を呼びかけた。	家庭でも情報モラルについての意識を高めることができた。	A
1 1 教職の専門性を高める研修の充実	教育活動の充実を図るため、教員等の資質向上に関する指標を踏まえた計画的・実践的な研修の推進に努める。	1 先進校で行っている公開研究会等へ参加した。	各教員が積極的に研究会に参加し、その内容を全職員に伝達することで指導力の向上につながった。	A
	人間性を磨き、日々互いに学び合い、指導力を高め合う研修に努める。	1 現職教育では、SEL や PBIS について学習した。 ※ PBIS Positive Behavioral Interventions and Support	現職教育では、講師に小玉有子先生を迎え、本校で推進している SEL や PBIS についての理解を深め、改善点を見つけることができた。	A
	学習指導要領の基本的ねらいを十分理解し、校内研修の充実に努める。	1 国語、社会、算数、理科を研究教科に据え、主体的で、ともに学び、高めあう児童の育成をテーマにした校内研修を実施した。	全員で研究授業を行い、学習指導要領のねらいを踏まえた授業を目指して、研修を実施することができた。	A

	家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の実践的研究の充実に努める。	1 地域の施設や人材を活用して、多くの体験活動やクラブ活動、福祉活動を実施した。	生活科や総合的な学習の時間、社会科などで積極的に地域に出かけ、ねらいに即した学びを展開できた。また、豆腐作りや運動会での田舎館音頭練習など、地域の人材と連携した教育活動を行うことができた。	A
	学校の教育課題を解決するための実践的研究に努める。	1 村のスクールカウンセラーを講師に招きSELとPBISの実践を深めるための現職教育を行った。	これまでの実践をふり返り、良い点は継続し、改善点はすぐに軌道修正することにした。児童の問題行動が減少し、少しずつ校内に落ち着きがみられるようになった。	A
12 開かれた 学校づくり	学校や地域の特色を生かした創意工夫ある教育課程の編成・実践に努める。	1 教育課程特例校として国際科を全学年で実施した。 2 中南地区連携推進協議会「地域コラボレーション演習」による学習支援で、弘前大学の学生による子どもたちへの学習支援が計画的に行われた。	村の保育園から中学校まで、継続的に英語を学ぶことができた。 弘前大学の学生が子どもたちのノートの取り方や調べ学習の支援を行い、子どもたちが学ぶ楽しさや成就感、達成感を味わい、大いに学習の成果を得ることができた。	A
	自己評価や関係者評価の実施・公表をとおして地域に開かれた学校づくりに努める。	1 学校評価については7月と12月の2回実施し、12月の結果は保護者に公表した。	7月の学校評価は改善可能なものをすぐに改善して教育活動に生かすことができた。12月の結果は職員会議の中で活用し、来年度の教育課程に生かすことができた。	A
	学校経営に村民憲章を生かした、創意工夫された教育活動の実践に努める。	1 村民憲章を生かした学校目標を設定して、それをもとに学校運営を推進した。	村民憲章の「い」は『元気な子ども』、「な」「だ」「て」は『やさしい子ども』、「か」は『学ぶ子ども』と関連させており、日常的に村民憲章を生かしていけるような教育活動を実践できた。	A

3 令和元年度重点施策の点検・評価

(1) 生きる力と夢はぐくむ学校教育の推進

〈田舎館中学校〉

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 授業内容 の充実	主体的に考え、対話を通して相手の考えを深く理解し、自分の考えを論理的に言えるような言語活動の充実を図るとともに、それに伴った指導計画等の整備に努める。	1 「協働的な学習」と「振り返り」を重視した授業づくり	各教科においてペア活動やグループ活動を取り入れ、言語活動の工夫を行った。多様な意見や考えに触れる機会となり、学習内容の理解や思考の深まりが見られた。	A
	確かな学力を身に付けることができるよう基礎的・基本的内容をしっかり押さえ、学習の仕方と一人学びのできる指導の工夫に努める。	1 学力検査等の結果活用 2 「学習の手引き」「家庭学習のすすめ」の活用 3 生徒会活動による学習心得の徹底	結果を踏まえて、補充を要する単元の指導とアンダーアチーバーへの支援を行った。NRTの5教科平均が1年生(現2年生)0.5ポイント上昇し53.5、2年生(現3年生)1.5ポイント下降したが50.4と全国平均をやや上回っている。 5教科の学習の仕方をまとめた「学習の手引き」、「家庭学習のすすめ」を利用して、年度始めやテスト前などに指導した。また、授業と家庭学習を関連付けて、家庭学習の習慣化と基本的な学習内容の定着を図った。 生徒会文化委員会を中心に、毎月重点を決めて点検した。生徒の学習態度は良好であった。	A
	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得に向けた教材の工夫を図り、個に応じた指導に努める。	1 個別指導の工夫と学習支援員の活用 2 中南地区連携推進協議会「地域コラボレーション演習」による学習支援	加配教員、学習支援員を授業でTTとして活用した。また、昼休みや放課後に遅進生徒を個別指導した。 弘前大学の学生による学習支援が生徒の学習意欲につながった場面も見られ、中学生を指導することで、大学生が学ぶ機会が多かったとともに、大学生の個別指導によって中学生にも成就感や達成感が見られた。	A

	様々な体験活動をと おして、自主性や自立心 の助長を図り、問題を解 決する力を身に付ける ことができる指導の工 夫に努める。	1 1学年「村内訪問学 習」と2学年「職場体 験」の実施	興味・関心のある施設や事 業所への訪問や体験、まとめ や発表活動を通して、自主性 や自立心が育ち、発表力が身 に付いた。	A
		2 3学年修学旅行で 「田舎館村PR活動」 の実施	事前調査や事後活動を含 めて、コミュニケーション力 や自主的な態度を育成した。	
		3 思春期教室、赤ちゃ んふれあい教室等の 実施	体験を通して、命の尊さや 生き方の指導をした。	
	学校図書室やICT などを活用し、子どもの 学びを支援する学習環 境の充実に努める。	1 技術の授業及び総 合的な学習の時間 におけるICT等の活 用。	インターネットを利用し て情報を収集し、それをも とにワープロソフトや表計算 ソフトを使ってまとめる授 業を行うことにより、プレゼ ンテーション能力の向上が 見られた。	B
2 道徳教育 の充実	人間尊重の精神と生 命に対する畏敬の念を 家庭、学校、その他社会 などの実生活に生かし、 豊かな心と広い視野を 育む道徳教育の指導体 制と全体計画の整備・充 実に努める。	1 道徳科の時間数の 確保	道徳科の授業時数を确实 に確保し、道徳の授業の充実 を図った。	A
		2 道徳的価値の内面 化を図る指導の充実	全体計画(別様)を活用し、 重点価値項目(自主・自立、 思いやり・感謝、生命の尊さ) を意識して各教科等と関連 付けた授業づくりをした。	
		3 教科化を受けた評 価のあり方の検討	管理職を含む全教員が授 業を行い、指導に生かすた めの評価のあり方について、道 徳教育推進教師を中心に検 討した。	
	友情、思いやり、協調 性がもてるような道徳 的実践力を高め、道徳的 判断力や心情的実践意 欲と態度が身に付く指 導に努める。	1 「館中いいね」の実 施	教師版「館中いいね」、生 徒版「館中いいね」の取組を 計画的に行った。思いやりや 感謝の気持ちが育まれ、教師 及び生徒間の良好な信頼関 係が構築された。	A
		2 朝読書の実施	全校生徒が落ち着いて読 書に取り組んだ。	
	子ども一人一人が正 しい判断力と公德心を もち、郷土を愛する心と ボランティアの心の育 成に努める。	1 ボランティアの奨 励	障害者施設(大鰐療育セン ター)のボランティア活動に 数名の生徒が参加した。ま た、生徒会委員会の活動とし ての各種募金活動や一人暮 らしのお年寄りを文化祭に 招待して接待した。	A
		2 一人暮らし高齢者	生徒会の美化奉仕委員会	

		への年賀状コンクールの実施	が年賀状コンクールを実施し、入選した年賀状を一人暮らしのお年寄りに送った。お礼の手紙をいただくなど、お年寄りから感謝された。	
		3 再生資源回収活動の実施	生徒会が中心となって、保護者等の協力を得ながら意欲的に活動した。	
3 特別活動 の充実	様々な集団活動を自主的、実践的に行い、子ども一人一人が集団や自己の生活上の課題解決を図り、集団及び社会での生活や人間関係がより良く築けるように、子どもに必要な資質や能力の育成に努める。	1 各学級における話し合い活動の計画的な実施。 2 次の活動に生きる行事等の振り返り。	学校行事との関連を踏まえた学級活動年間計画に基づいて話し合い活動を行わせ、よりよい集団生活のあり方について適宜考えさせることができた。 行事等の振り返りを行うとともに、感想や反省、次への抱負などを書いたシートを教室内に掲示することで、主体的な取組への意識を高めることができた。	A
	子どもの生き生きとした自主的態度を育てる学級活動やホームルーム活動の推進に努める。	1 学級の係活動と生徒会委員活動の充実 2 短学活のプログラムの工夫	生徒一人一人が学級または生徒会委員会の仕事を引き受け、役割を果たすことと併せ、生徒間の「館中いいね!」を行うことで自己有用感を味わわせることができた。 基本形を基にしながらも学級独自のプログラムによる朝の会、帰りの会を行うことにより、自主的な態度が備わってきた。	B
	自治活動をもつ児童会活動や生徒会活動を積極的に推進する。	1 生徒のアイデアを生かした生徒会活動の充実	生徒に運営の全てを任せた生徒集会の運営、生徒の発案を最大限生かした委員会活動により、自分たちでよりよい学校にしていこうとする意識を高めることができた。	A
	子どもの豊かな個性を伸ばすとともに、仲間同士の触れ合いの場を大切にするクラブ活動や部活動の活性化を目指す。	1 部活動の奨励	すべての生徒に加入するよう促した。結果、ほとんどの生徒が加入した。	B

	子どもが主役となれるような自主的活動による感動の場面や集団への所属感・連帯意識を深めるような学校行事の内容を工夫する。	1 館中オリンピック、文化祭、合唱コンクール、校内球技大会の充実	館中オリンピックを文化祭から切り離し、1学期中に学級の団結が生まれる機会を設けることができた。また、文化祭における学級対抗のプログラムや合唱コンクール、校内球技大会においても学級の連帯感を感じたり、一人一人が所属感を味わったりする行事となった。	A
4 体育及び 健康教育 の充実	子ども一人一人が一生涯にわたって運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるように、子どもの資質や能力の育成及び体力を向上させる体育の推進に努める。	1 保健体育の授業の充実 2 部活動の奨励 3 清掃時体力づくり活動(ステップアップタイム)の充実	様々な運動・スポーツに触れさせて、技術の向上及び体力の向上に努めた。また、スポーツテストを実施し、生徒が自己の体力に興味・関心をもつよう指導した。 すべての生徒に加入するよう促した。結果、ほとんどの生徒が加入した。 保健体育科と生徒会体育委員会を中心に体力づくり運営委員会を組織し、生徒がリーダーシップを取って清掃時体力づくり活動(ステップアップタイム)の活動に取り組んだ。	A
	健康に関する知識を身に付け、健康な生活ができる積極的態度を育成する。	1 保健学習と保健指導の充実 2 歯みがき教室の実施による虫歯予防指導の充実	保健体育科を中心に保健学習の充実を図った。また、熱中症の予防や感染症の予防、睡眠の大切さなどは、保健だより等を活用して適宜指導した。 健康診断の結果をもとに、健康上問題がある生徒に対して、指導及び相談を行い、治療が必要な生徒の保護者に対して治療勧告書を発行した。 歯科衛生士を講師に招いて歯みがき教室を全学年で実施し、歯みがきの大切さを学ばせた。全生徒が給食終了後に歯磨きを継続的に行った。	B
	正しく安全な情報を自分で判断し、自分の身の安全をしっかりと守ることができる心を育てる。	1 安全指導の充実	生徒の実態や地域の環境を踏まえ、登下校の安全指導を行った。また、技術科や情報モラル教室で情報の管理及びスマホやケータイによる健康被害等について指導した。	B

		2 自転車の安全点検の実施 3 自転車交通安全教室の実施 4 避難訓練の充実	「青森県自転車商業組合黒石支部」に依頼し、不良箇所を指摘してもらい、生徒の指導に生かした。 黒石警察署の講師を招聘し、自転車の安全運転への意識を啓発した。 年2回の避難訓練と年1回の不審者対策の訓練を計画的に実施した。	
5 生徒指導 の充実	家庭や地域及び関係機関等と連携を図り、問題行動や不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。	1 定期的、日常的な情報共有の推進 2 三者面談での保護者との情報共有 3 「いじめ・不登校対策委員会」の開催	職員朝会や週1回の主任会議、定例職員会議等で生徒の情報を共有し、問題が生じた場合は速やかに対応した。 夏季休業中、生徒・保護者との面談を行い学校及び家庭の情報交換を行い、指導に役立てた。 不登校傾向のある生徒に対して学校としての対応の仕方について共通理解を図った。そのおかげもあり、年間を通し不登校ゼロを達成することができた。	B
	基本的生活習慣を身に付けさせ、一人一人が持っている良さを認めながら励まし、個性を大切にした生徒指導に努め、協働的指導体制の充実に努める。	1 日常的な生徒観察と指導 2 生徒指導の機能を生かした教科指導の充実	学級担任による生活記録の確認と学年教師による生活態度の指導を日常的に行った。 教科指導を含めすべての教育活動の場面で、生徒指導の機能を生かし、個性を伸ばす指導に努めた。生徒は落ち着いて学校生活を送った。	B
	子ども一人一人を大切にした学年・学級経営の充実に努める。	1 所属感・成就感を獲得できる係活動・集団活動の充実	生徒一人一人が自己存在感や所属感などを獲得できる学級環境づくりをした。また、係の役割分担を明確にして、生徒の主体性を育成した。	A
	子どもの内面からの理解に基づいた教育相談の充実に努める。	1 定期教育相談・随時相談の実施	生徒へは「日常生活アンケート」「いじめアンケート」、保護者へは「いじめアンケート」	B

			ト」を行い、その回答内容を生かして教育相談を実施した。また、昼休みなどに生徒と触れ合う時間を確保し、内面理解を図った。	
	いじめ行動を積極的に認知し、徹底した組織的解決に努める。	1 いじめアンケートの実施	生徒及び保護者に対して、いじめアンケートを年4回に増やして実施した。アンケート結果を公表するとともに、些細な嫌がらせやいじり等もいじめと判断し、全校朝会で指導し、保護者とも協力しながら早急に対応した。	B
6 キャリア教育の充実	子ども一人一人が、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるように、必要な基盤となる資質や能力、態度の育成に努める。	1 キャリア教育全体計画・指導計画の遂行	キャリア教育で育成する能力・態度と各学年の重点を明確にし、全体計画と年間指導計画に沿って取り組んだ。	B
	キャリア教育指導体制を整え、現在及び将来の生き方を考える指導や進路指導の充実に努める。	1 進路相談、三者面談の実施 2 高校体験入学の参加奨励	これまでの取組を継続しながら、個々の生徒の状況に応じた指導に努めた。ほとんどの生徒が第一志望の高等学校に進学した。 長期休業中に計画的に参加させ、生徒たちは適切に進路を選択した。	A
	子どもの発達段階に応じた勤労観や職業観の育成に努める。	1 村内訪問学習（1年）、職場体験（2年）、修学旅行での「田舎館村PR活動」（3年）の実施	総合的な学習の時間として、1年「村内訪問学習」、2年「職場体験学習」、3年の修学旅行における「田舎館村PR活動」を系統的に配置して取り組んだ。	A
7 特別支援教育の充実	全教職員が共通理解しながら、校内特別支援教育体制の充実に努める。	1 特別支援教育委員会の設置 2 「アセス」の事例研修の実施	「特別支援教育委員会」を開催し、確認された支援方法等について、全教職員が共通理解して生徒を指導した。 年2回「アセス」の事例研修を実施し、発達障害を含め個々の生徒について共通理解した。	A
	個別の指導計画及び教育支援計画を作成し、それを活用しながら関係機関と連携を図り支援の充実に努める。	1 個別の指導計画と教育支援計画の作成 2 小学校との情報交換・連携の推進	特別支援学級に在籍する生徒2名について、個別の指導計画及び教育支援計画を作成した。 小学校との情報交換を密に行い、生徒の指導に大いに	B

		3 地域民生委員との情報交換の推進	役立った。 民生委員との情報交換会を開催した。地域や家庭の有意義な状況を得た。	
	子ども一人一人の障害の状態や特性を的確に把握し、自立や社会参加ができるよう、適切な指導及び必要な支援に努める。	1 個別の指導計画と教育支援計画の活用 2 特別支援教育支援員を活用した学習支援の充実	特別支援学級の担任を中心に、個別の指導計画及び教育支援計画を活用しながら、継続的できめ細かな指導を行った。 特別支援学級及び普通学級の授業で、TTとして活用した。学習の遅れのある生徒に対しても有効に機能した。	A
	他校や外部団体との交流を図り、共同学習による相互理解の推進に努める	1 交流学級及び小学校との交流	特別支援学級に在籍する2名の生徒について、交流学級での授業を問題なく行うことができた。 小学校の特別支援学級に在籍する児童との買い物と調理を主とした交流学習では、先輩らしさを発揮し、自己有用感を感じることのできる機会となった。	A
8 環境教育の推進	教科等間の関連を踏まえ、環境にかかわる体験学習の推進に努める。	1 緑化推進事業の充実	美化奉仕委員会が中心となって、花の植え付け、プランターの花への水やりや花壇の草取りを行った。	B
	地域の環境保全に主体的に取り組む指導の工夫に努める。	1 省エネ、リサイクル活動の推進	生徒が地球環境保全に関心をもって、資源回収活動に積極的に参加した。 学校の使用電力や水道料金を昨年度との比較で月ごとにグラフ化したものを掲示し、省エネに対する意識を高めることができた。	A
	環境と人間のかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境にかかわる体験活動の充実と指導に努める。	1 人間生活と環境についての学習の充実	社会、理科及び技術・家庭等の学習において、公害、酸性雨、自然災害及び放射能問題などを取り上げて、人間生活の利便性と環境の悪化の相関関係について学習した。また、節電や紙のリサイクル活動を教師が率先して行った。その成果をグラフに表し、生徒が見えるところに掲示した。	B
9 地域の文化や伝統と国際化に対応す	地域の文化や伝統について理解を深めるとともに、郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育に努める。	1 村内訪問学習(1年)の地域理解学習の実施 2 「田んぼアート」の田植え、稲刈りへの参	村内訪問学習を通して、郷土に対する理解と意思を深めた。 田んぼアートの田植え及び稲刈りに、部活動ごとに参	A

る教育の 推進		加	加し、熱心に作業を行った。 修学旅行でのPR活動とも 連動し、郷土を愛する心を育 んだ。	
		3 修学旅行における 「田舎館村PR活動」 (3年)の実施	東京お台場で田んぼア ートを中心とした「田舎館村P R活動」を行った。生徒の郷 土に対する誇りの涵養に大 いにつながった。	
	諸外国の文化と伝統 について関心と理解を 深め、国際社会に貢献し ようとする心を育成す る国際理解教育の推進 に努める。	1 グローバル社会に ついての学習の充実	社会の授業において、世界 文化、宗教の多様性、共生社 会、人権問題、NGOの活動 などについて学んだ。	B
10 情報化に 対応する 教育の充 実	ALT(外国語指導助手) 等を活用しながら外国 語教育の充実を図り、外 国語を通じて子どもの コミュニケーション能 力を育成し、異なった文 化や習慣を持つ人々との 交流を積極的に推進 する。	1 村教振の学習部会 における小中連携の 推進 2 ALTの活用	英語教育の充実を掲げる 村教育委員会の意向を受け て、校長間で小中連携による 英語教育の充実について意 見交換をした。 ネイティブスピーカーで あるALTとの授業では、英 語で話すことの大きな動機 付けになっている。生徒は、 授業や休み時間等でALT と積極的に触れ合っている。	B
	情報モラルを含む情 報活用能力を身につけ ることができるよう、情 報教育を推進する指導 体制の整備と充実に努 める。	1 技術科の指導計画 に基づいた指導の充 実	コンピュータの構成と基 本的な情報処理の仕組みに ついて学習した。	B
	学習指導でのコンピ ュータによる情報通信 技術(ICT)や学校図 書館を適切に活用し、子 どもの学びを支援する 学習環境づくりに努め る。	1 各教科や総合的な 学習の時間の学習に おける積極的な活用 2 教員の教材研究や 学習指導で積極的に 活用、校内LANを生 かした事務的な業務 の効率化	各学年に配置された大型 の液晶テレビを大いに活用 し、各教科等の指導に役立て た。 共有フォルダを設けて、学 習教材作成等や事務的な業 務の効率化を図った。	B
	情報通信ネットワー ク等を活用した教育の 推進に努める。	1 各教科・総合的な学 習の時間での活用	インターネットを調べ学 習に活用し、生徒の意欲的な 学習の促進を図った。	B
	家庭や地域と連携し ながら情報モラル教育 に関する指導の充実に 努める。	1 生徒と保護者を対 象にした情報モラル 教室の開催	子どものネットリスク教 育研究会のインストラク ターを講師に招聘して、ネット 利用による健康被害のリス クや予防について、生徒と保	A

			護者を対象にした情報モラル教室を開催し、好評であった。	
1 1 教職の専門性を高める研修の充実	教育活動の充実を図るため、教員等の資質の向上に関する指標を踏まえた計画的・実践的な研修の推進に努める。	1 人事評価制度の面談を通じた職員の育成 2 中南地区連携推進協議会による「健康教育」公開授業	職員から提出された自己目標シートに基づく面談を行った際に、「教員等の資質の向上に関する指標」を意識した取組になるよう指導・助言を行った。 「ステップアップタイム」を中心とした健康教育について公開授業が行われ、他校の先生方から称賛する声が多かった。	A
	人間性を磨き、日々互いに学び合い、指導力を高め合う研修に努める。	1 校内研修の充実 2 全教員による道徳の授業の実施	授業公開・相互参観等も含め、校内研修計画の副題「協働的な学びによる振り返りを重視した授業づくり」に関わる指導法の研究を通して、主体的・対話的で深い学びの授業づくりを推進した。 管理職を含む全教員が道徳の授業を行い、職員の同僚性を高めた。	A
	学習指導要領の基本的ねらいを十分理解し、校内研修の充実に努める。	1 全教員の授業公開・相互参観の実施 2 実践的な研修体制の推進	授業の公開・相互参観を計画的に進めた。指導法の改善につながるなどの成果が見られた。 指導主事の要請訪問ではワークショップ形式のグループ協議を行い、新しい指導要領のねらいを理解する上で有意義な研修会であった。	A
	家庭や地域社会と連携した特色ある教育活動の実践的研究の充実に努める。	1 地域の教育資源を活用した教育活動の推進	村内訪問学習、職場体験（各事業所）、修学旅行における田舎館村PR活動、救命講習（地元消防署）、赤ちゃんふれあい学習（村厚生課、保健師、地域の母子）、再生資源回収（PTA）、部活動コーチの委嘱などを行った。それらにより教育活動の活性化や生徒の自己有用感の向上が図られた。	A
	学校の教育課題を解決するための実践的研究に努める。	1 村教振の部会の事業を中心とした活動の充実	「村教振」での小中学校間の情報交換と合同の研修会や教育活動を通じて、相互の理解が深まった。特に、「気になる児童生徒」について	A

			は、幼保小中が連携して系統的に取り組んだ。	
12 開かれた 学校づくり	学校や地域の特色を生かした創意工夫ある教育課程の編成・実践に努める。	1 各種たよりによる情報発信の充実 2 地域の教育力を活用した教育活動の推進 3 清掃時体力づくり活動(ステップアップタイム)の推進	学校だよりをはじめ、各種たよりで情報を発信した。 田舎館村PR活動に向けての役場職員や救命講習会の地元消防署、赤ちゃんふれあい学習の村厚生課及び部活動の外部コーチの協力で、充実した教育活動を進めた。 特色ある教育課程として、清掃時体力づくり活動(ステップアップタイム)を生徒主体で取り組んだ。	A
	自己評価や関係者評価の実施・公表をとおして地域に開かれた学校づくりに努める。	1 年度ごとの学校自己評価の実施と、翌年度の教育課程改善に反映	保護者アンケートを集約し、保護者の意見を学校の取組に生かした。今後も保護者の声を謙虚に受け止め、可能な部分で学校運営の参考にした。	A
	学校経営に村民憲章を生かした、創意工夫された教育活動の実践に努める。	1 村民憲章の趣旨をもとにした村教育委員会の教育方針を踏まえた教育の推進	村民憲章の趣旨をもとにして設定されている村教育委員会の教育方針や地域の状況、生徒の実態を踏まえて、学校運営を進めた。	A

(2) 一人一人の学習と社会参加を実現する社会教育の推進

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 一人一人の主体的な学習と社会参加活動の促進による生涯学習の推進	幼児から高齢者・障害者を始めとする多様なニーズに応じた学習機会の充実に努める。	【家庭教育】 リズム遊び・リズム体操 対 象 川部西ヶ丘保育園 乳幼児、保護者 期 日 6月29日 場 所 川部西ヶ丘保育園 講 師 大藤 朋美 氏 参加者 60名	保育園の協力を得ながら、家庭講座に参加した保護者とその乳幼児を対象に開催した。 「ふれあいリトミック」を通して、親子の絆を深めた。	A
		【青少年教育】 自ら考え、判断し、行動する力の育成 1 子ども会リーダー研修会 期 日 7月20日 ～21日 場 所 種差少年自然の家 参加者 36名	八戸市の種差少年自然の家で蟹釣りやネイチャーストラップづくり、ナイトハイクを実施した。 屋外泊をしたことで、協調性やリーダーシップの重要性を再確認することができた。	A
		2 ひらがな・かきかた教室 期 日 5月25日 場 所 文化会館 参加者 33名	平成28年度から事業を実施し、参加者は平成30年度から11名増え、33名となり、児童も意欲的になっている。 現役の書家の指導を受け、全国コンクールに出品するなど、自らの実力を試した。	A
		【成人教育】 津軽伝承工芸館～中野もみじ山ウォーキング 期 日 10月27日 場 所 津軽伝承工芸館～中野もみじ山 参加者 8名	津軽伝承工芸館から中野もみじ山までウォーキングを行ったことで、参加者の健康意識も高まった。 ただし、参加者は少なく平成30年度と変わっていないため、開催時期や内容を工夫する必要がある。	B

		【成人教育】 終活講座（中止） 期 日 3月21日 場 所 文化会館 参加者	大変楽しみにしていた講座であったが、今回、新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大していることから、やむなく、感染を防止するため中止となった。	—
		【高齢者教育】 生きがいのある充実した生活を促進する 白寿大学講座 教養講座／施設見学 水に親しむ／自然に親しむ ユニカール／そば打ち体験 講演／映画鑑賞会	令和元年度は94名の登録があり、開催した10講座に延べ291名が参加した。 学級委員会では、開催済み講座への感想や課題、今後の講座への意見が活発に行われた。 閉講式は新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大していることから、感染を防止するため、やむなく、今回は中止となった。 人気のある講座は継続し、白寿大学生が主体性を持って学習に取り組める環境づくりが、今後必要である。	A
	学校と地域・関係機関との協働による多様な学習活動を促進する。	他社会教育団体が事業を行っているので、村単独事業として実施していない。	学校と地域の協働については、村PTA連合会が中心となり、小中学校のPTAが協働で学習活動を行っている。今後も、村PTA連合会には社会教育団体活動の促進を図るため、引き続き、社会教育活動補助金を交付していきたい。	C

		活動補助金及び委託料 1 子ども会育成連絡協議会 41,000 円 2 連合婦人会 100,000 円 3 P T A連合会 41,000 円 4 文化協会 50,000 円 5 赤もろの里コミュニティ上 四協議会 45,000 円 6 畑中地区団体連絡協議会 45,000 円 7 大根子地区団体連絡協議会 45,000 円 8 川部地区団体連絡協議会 45,000 円 9 光田寺地区団体連絡協議会 45,000 円	団体によって成果の差はあるが、どの団体も一定の活動実績を上げている。 このことから、引き続き、活動支援と各団体事務局の育成を積極的に支援していきたい。	A
	学習成果を生かした社会参加活動を促進し、生涯学習の推進に努める。		公民館活動として、学習成果を活かした具体的な活動は行っていない。 ただし、主体的な活動は個々に行っている団体もあることから、要望があれば、積極的に支援していきたい。	E
2	家庭の教育力を高めるため、乳幼児、小中学生の保護者を対象にした多様な学習機会の拡充に努める。	【家庭教育】 親子ヨガ 対 象 畑中保育所 幼児、保護者 期 日 2月22日 場 所 畑中保育所 講 師 下山 明子 氏 参加者 60名	保育所の協力を得て、保育参観に参加した保護者とその幼児を対象に開催した。 親と子が一緒になって、ヨガを体験することで、親子のふれあいと信頼関係の築き方について理解を深めた。	A
	心豊かでたくましい青少年の育成と地域全体で子どもを育てる活動の充実に努める。	1 子ども会スポーツ大会 スポーツを通して、子ども会会員相互の親睦と自主的態度を育成する 種 目 ドッジボール、 ソフトドッジボール 期 日 11月23日 場 所 村民体育館 参加者 105名	少子化に伴い、単位子ども会だけではチーム編成できなくなったことから、混合チームを編成して、ドッジボールとソフトドッジボールの試合を行った。	A

	2 子ども会雪合戦大会(中止) 雪に親しみ、野外で遊ぶ楽しさを体験する 期 日 1月26日 場 所 役場東側水田 参加者	万全の準備をしたにもかかわらず、当日は天候に恵まれず、積雪がほとんどなかったため、コート of 整備ができなかったことや雪玉を作ることができなかったことから、やむなく中止となった。	—
	3 各単位子ども会へ 団体活動委託料 (22 団体) 200,000 円	各地域の子ども会が自主的に地域の特色を活かした事業を展開している。	B
	4 成人式 新成人を祝う集い委託料 129,200 円	成人記念パーティーのほかに、新成人への記念品贈呈を企画した。	A
	5 青少年問題協議会	青少年健全育成について、活発な議論が交わされており、推進員の活動も一定の実績をあげている。	A
	6 青少年健全育成推進員 地域の健全育成の啓発事業及び関係団体相互の連絡調整	スマートフォンをはじめとした情報端末の使用についての提言をまとめ、小中学校の児童生徒を通じ、保護者へ周知した。 また、広報いなかだて8月号にも掲載し、村民への周知を図った。	A
	7 朝のあいさつ運動 【田舎館小学校】 期 日 4月10日 7月17日 8月28日 11月6日 【田舎館中学校】 期 日 4月11日 7月18日 8月27日 11月7日	平成29年度から県事業の実施期間にあわせ、小中それぞれ年4回、合計8回のあいさつ運動を実施した。 青少年健全育成推進員、小中学校の児童生徒の協力によって、延べ325名が参加した。	A

		8 日常的村内巡回指導 村内公園等の巡回	不審者対策と児童生徒の 安心・安全を確保するため、 巡回指導を行った。	A
		9 青少年健全育成啓発事業 「三代目 津軽伝統 金多豆蔵人形一座」 期 日 10月22日 場 所 田舎館小学校体育館 参加者 110名	田舎館小学校5年生の親 子レクで人形劇を上演した。 人形劇を通じて、児童・保 護者に対し、SNSなどを使用 した「いじめ問題」について 啓発を行い、多くの評価を 得ることができた。	A
	青少年の体験活動 を充実させ、各関係団 体の指導者養成に努 める。	村独自での研修は実施してい ないが、指導者には青森県総合 社会教育センター及び中南教育 事務所で開催する研修等につい て、積極的に参加を呼びかけて いる。	社会教育委員については、 県主催による生涯学習ゼミ ナールに参加することで、研 修の機会としている。	B
	学校教育と社会教 育が協働し、子どもの 読書活動の充実に努 める。	公民館活動としては実施してい ないが、任意の読書団体「お 話会 ひまわり」が読み聞かせ 活動や学校図書支援ボランティ アを行っており、子どもの読書 活動に大いに貢献している。	田舎館小学校では、読書団 体「お話会 ひまわり」が、 毎年、各学年で1回(1年生は 2回)読み聞かせを実施して いる。近年、児童生徒の読書 量は非常に多くなっている。	B
	地域と子どもが協 働できる地域キャリ ア教育に努める。	小中学校では「年間指導計画」 をもとにキャリア教育が行われ ており、職場体験等によって役 場での行政職体験を間接的に支 援している。	学校教育でキャリア教育 が行なわれており、社会教育 独自の事業としては行なわ れていないが、間接的に子ど もたちを支援している。	C
3 社会教育 推進体制 の充実	生涯学習・社会教育 の推進に資する基盤 の整備に努める。	生涯学習推進協議会は設置し ていないが、各社会教育団体と 連携して生涯学習を推進してい る。	多様化、高度化する学習活 動を支援するため、さらに効 果的な社会教育推進体制の 充実が必要である。	B
	様々な機関や各種 団体等との連携を強 化し、活動の支援に努 める。	各地域では、団体連絡協議会 等を通して、団体間の連絡調整 を図り、事業を展開している。	コミュニティ推進事業を 活用し、地域活動の活性化と 団体相互の連携強化を図っ ていく。	B
	社会教育団体が主 体的に取り組む姿勢 を育み、社会教育活動 を促進する。	補助金等の実績報告書を提出 する際、総会資料も添付しても らい、活動機会を促進するた めの情報収集に努めている。	県総合社会教育センター、 中南教育事務所等からの情 報を文化会館や臨時図書室 に掲示し、各団体の活動機会 を促進するよう努めている。	B

	社会教育関係職員の資質と能力を高め、専門員としての養成に努める。	社会教育の資質と能力を高めるためにも、専門員としての社会教育主事の必要性は、重要と思慮する。	社会教育主事の職員が在職しているので、今回、社会教育主事の養成は行なっていない。	D
4 地域活動に関わる人財の育成	学校・家庭・地域が協働し、地域活動に関わる人財ネットワークの形成に努める。	1 村民体育レクリエーション大会	地区住民が一体となって大会に参加し、学校・家庭・地域が連携しており、マンネリ化しないように努めている。	A
		2 田舎館小学校稲作体験	5年生を対象とした稲作体験を実施し、田舎館村の歴史と文化を学習することにより、村の特色である田んぼアートに興味を持ってもらうと同時に、6年生で歴史を学ぶ足がかりとして、弥生時代を知るきっかけとなっている。	A
		3 全村一斉空き缶拾い	各地域の人たちが一斉に、道路周辺のゴミや空き缶を拾い、村内各地域の清掃美化活動を行うことで、連携の強化に繋がっている。	A
		4 田んぼアート体験	田んぼアートで行われる「田植え」と「稲刈り」の体験に地域全体がかかわっており、小学生、中学生のほか、多くの世代の人たちが協力するなど、学校・家庭・地域の連携が強化されており、社会教育力の向上が見られる。	A
	地域活動を支える指導者とコーディネーターの養成と実践者の育成に努める。	地域活動を行う関係団体には、補助金を交付し、助言、指導に努めている。また、文化会館等の使用時には、使用料減免措置等を行っている。	各関係団体で、年々会員の減少傾向が見られ、そのため社会教育活動に支障をきたしているところもあるので、各団体の良さを紹介しながら、各団体の会員を募る手立てを講ずる必要がある。	A

地域づくりに取り組むリーダーや次世代の地域を担う若者の育成に努める。	各地区会主催の祭りやねぶた運行では、若者が中心となって活動しており、世代間交流を深め、地域を活性化している。	コミュニティ推進事業補助金を拡充し、祭りのみならず、令和2年度からねぶた運行についても支援を行う。	B
地域の特色を活かした多様な働きを可能にする学び直しの機会を充実させる。	集会施設ではヨガやダンスなど積極的にサークル活動が行われており、健康を意識した学び直しの活動も見られる。	公民館解体に伴って集会施設を活用した活動については、「集会施設等利用料助成事業補助金」を定めた。	C

(3) 健やかで活力に満ちた生涯スポーツ及び競技スポーツの振興

重点施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 スポーツ指導者の養成と資質の向上	スポーツ指導者の研修機会の提供を促進し、資質向上に努める。	1 村スポーツ推進委員を対象に冬期間(12月～2月の月曜日)に軽スポーツの講習会を実施している。	競技内容とルールを理解することができた。今後は、指導方法及び競技を普及させることに取り組みたい。	A
		2 中南地域で行われた各研修会に参加している。	スポーツ推進委員が研修会に参加することで、指導者の資質の向上が図られた。	A
	スポーツ指導者の活用拡充に努める。	スポーツ推進委員を村PTAスクール(ソフトバレー・カローリング)に指導者や審判員として積極的に派遣を行っている。	今後は、他団体にも積極的に働きかけて派遣し、村内の生涯スポーツに対する意識を高めていきたい。	B
2 スポーツ環境の整備・充実	スポーツ施設を積極的に開放し、広く村民のスポーツ振興に努める。	令和元年度施設利用者数 1 村民体育館 12,311名 2 克雪トレーニングセンター 11,038名 3 皂莢稽古館 通年	施設の老朽化に伴い、設置器具の破損が見受けられ、利用者の利用スペースは制限されているところがある。可能な限り、修繕等に対応する。	B
	学校体育施設でのスポーツ活動を推進し、施設活用の促進に努める。	令和元年度施設利用者数 1 田舎館中学校体育館 2,232名	冬期間(11月～3月)に克雪トレーニングセンターを使用できない団体が、中学校体育館を利用することで、屋外スポーツの活動時間を確保することができた。	B

3 村民の健康づくりの推進	健やかで活力のある生活を送るため、スポーツ活動の推進に努める。	1 村スポーツ協会及びスポーツ少年団（8団体）に活動費として補助金を交付している。また、各種大会に参加した時は、経費の一部を補助している。	各団体が積極的に各種大会に参加して、各団体が活発に活動することができた。	A
		2 スキー教室 対 象 小学生 期 日 1月8日 場 所 相馬ロマンティックピア スキー場 参加者 24名	小学校の冬休み期間中にスキー教室を行ったが、参加者は例年どおりの人数だったことから、次年度からは、もう少し参加者が増えるような工夫も必要である。	A
		3 保育園児童館スポーツ教室 (総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会) 村内4ヶ所の保育園と、3ヶ所の児童館へ講師とともにこちらから各施設へ出向し、様々なスポーツ教室(野球、バスケ、サッカー、ラグビー、ヨガ、空手)を実施した。そのことで、親の送り迎えの負担軽減にも繋がった。 今後は、保育園側や児童館側の活動の幅を増やし、多様な競技にも触れるなど、多くの動きを体験することで将来への選択肢を増やすための体験の場を幼児期、児童期から積極的に提供していきたい。	保育園で11回、児童館児童クラブで4回の計15回開催し、延べ397名の園児や児童に複数の競技を体験させることができた。 更には、幼少期に様々な動きを楽しみながら経験する機会を提供することができたことは、大きな成果となった。	A
	スポーツ・レクリエーションの普及を図り、健康づくりの推進に努める。	P T Aスクールにスポーツ推進委員を派遣した。 また、老人クラブ連合会からの依頼で1月にカラーリングとペタンクの指導を行った。	村民の健康づくり推進のためにも、村内諸団体へのスポーツ・レクリエーションの啓発活動を積極的に図っていきたい。	A

(4) 未来へ伝える芸術文化の振興と文化財の保護・活用

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 芸術文化 活動の推 進	村民の芸術文化に 対する意識の高揚と 活動の推進に努める。	文化会館を積極的に開放、活 用し、発表会や展示会の実施 等、村民の芸術文化への意識の 高揚を図った。	社会教育施設の効果的な活 用を図り、高度な芸術文化に 接する機会を提供することが 必要である。 文化協会やサークル等によ る発表会、展示会を実施した。	B
	伝統芸能に親しむ 機会の拡充を図り、後 継者の育成に努める。	例年、垂柳獅子踊り保存会が 小学校獅子踊りクラブへ芸能 指導を行い、垂柳獅子踊りの伝 統技術を学んできたが、令和元 年度は行わなかった。	各集落で実施している無形 文化財（カパカパ、福俵、ボー ノ神）に対して次世代に継承 していく必要があることから、コミュニティ推進事業補 助金を交付して支援してい く。また、子どもの減少に伴 い、後継者の育成が重要課題 である。更には、技術の伝承 が途絶える可能性があり、資 料映像の作成が課題である。	C
2 文化団体 の組織活 動の充実	文化団体、サークル 等の組織の充実に努 める。	文化団体への活動補助金 1. 文化協会 50,000 円 2. 垂柳獅子踊り保存会 45,000 円 文化協会の芸能発表会を文 化会館で年2回実施している。 垂柳獅子踊り保存会が田舎 館小学校獅子踊りクラブに対 して、年数回の指導を行って いるが、令和元年度は実施しな かった。	文化団体の活動の充実を図 るために、活動内容に見合っ た適切な支援が必要である。 また、活動の支援に際し、 関係施設の利用予定の調整を 円滑に行っていくことが課題 となっている。	C
	文化団体間の連携 を図り、支援をすると ともに活動の促進に 努める。	芸能発表会、展示会（写真展、 書道展、生け花展、川柳等）を 通して、サークル間の交流を深 め、成果発表の場を提供するこ とで活動の促進も図ることが できた。	文化協会の連絡調整の強 化、特に事務局の育成が重要 である。 また、文化協会の主催者も 高齢化しており、次世代の文 化団体にうまく継承できない ことが、将来、存続できるか どうかの課題となっている。	B

3 文化財の 保護・活 用	史跡垂柳遺跡、高樋 (3) 遺跡の保存・整 備・活用を図り、埋蔵 文化財に対する意識 の高揚に努める。	指定管理者を通じて、遺跡の 草刈り等の環境整備を実施し た。また、遺跡地の復元田を活 用した稲作体験等の実施によ り周知・啓蒙につながった。	今後は、指定管理者による 更なる環境整備と遺跡地の利 活用が必要である。	B
	博物館及び埋蔵文 化財センター、総合案 内所「遊稲の館」の利 活用を積極的に推し 進め、文化財に接する 機会の充実に努める。	例年、博物館の絵画等の展示 替えを行っている。また、米・ 稲・田んぼをキーワードとした イベントの企画を実施してい る。 その他に、指定管理者主催で 埋蔵文化財センターにおいて 村の文化財鑑賞とコラボした ジャズコンサートを開催した ところ、参加者から多くの称賛 の声が上がった。	イベント等は指定管理者に 任せているが、マンネリ化防 止、新イベントの提案の受け 入れなど、教育委員会側も積 極的な利活用につながる助言 をしていきたい。 また、道の駅「いなかだて」 入口付近に埋文・博物館への 案内看板を設置したので、施 設見学者の増加にもつながる ことを期待したい。	B
	村指定文化財の保 護・啓発に努める。	総合案内所付近に設置した 垂柳遺跡指定書の説明書きが 劣化により見えにくくなった ため、説明板の板面の製作を行 った。	今後は、村広報誌等を活用 して、村文化財の存在と価値 を村民に広く知らしめていく ことが課題として挙げられ る。	B
	無形文化財の支援 及び後継者の育成に 努める。	垂柳獅子踊り保存会への補 助、支援を行った。	垂柳獅子踊りをはじめとし た村内無形文化財の保存団体 との連携を密にし、要望への 迅速な対応が可能な体制を構 築していく。	B
4 「田舎館 村誌」の 活用	社会教育・学校教育 における学習機会の 提供に努める。	現在、社会教育については、 村誌を題材にした学習機会の 提供を行っていない。 学校教育では、村誌や村政要 覧など村に関する資料は、授業 の中で社会科や総合的な学習 などに活用されている。	今後は、社会教育に関して は、村誌を教材にした学習講 座の開設も検討してみたい。 学校教育では、村誌は社会 科の授業で「昔の暮らし」や 「地域の歴史」の中で活用さ れていることが多い。	C
	田舎館村誌の啓蒙 を図り、効果的な利活 用の促進に努める。	村誌の販売を目的に、文化会 館や埋蔵文化財センター等に ポスターを掲示するなど、積極 的に啓蒙活動を行った。	田舎館村の歴史を幅広く周 知させるために、一人でも多 くの人たちに村誌を読んでも らえるように、今後も継続的 に啓蒙を図っていく。	B

(5) 良好な教育環境づくりの推進

ア 学校教育環境の充実と教育の保障

No	事業名	事業の現況等	実績及び今後の取組	備考
1	小学校プール循環ろ過装置配管修繕	老朽化により不具合が生じたため修繕	修繕完了	
2	小学校校舎及びクラブハウストイレ漏水等修繕	トイレの部品の老朽化により漏水等が生じたため修繕	修繕完了	
3	小学校消火栓呼水貯水槽水漏修繕	消火栓呼水貯水槽に水漏れが生じたため修繕	修繕完了	
4	小学校雲梯修繕	風雨等により錆が発生したため修繕	修繕完了	
5	小学校ネット環境整備	無線アクセスポイント整備及びLAN配線作業	整備完了	
6	小学校校務支援システム等更新	校務用ノートパソコンのOSアップグレード、校務支援ソフト及びサーバーの更新	整備完了	
7	小学校タブレット整備	必修となるプログラミング教育に対応するため、各教室で利用できるタブレットを整備	整備完了	
8	小学校ストーブ石油暖房機学校備品	5年次計画で購入(今年度5年次)	備品整備完了	
9	小学校地下タンク付属設備修繕	オイルポンプリレースイッチの異音と点検ピット蓋等の腐食が確認されたため修繕	修繕完了	
10	小学校家庭教室給水管等漏水修繕	老朽化により水漏れが生じたため修繕	修繕完了	
11	小学校職員室等空調設備設置工事	熱中症対策として職員室等に設置	工事完了	
12	小学校教室等空調設備設置工事	熱中症対策として普通教室や特別教室に設置	工事完了	
13	中学校理科室ガス漏れ警報装置交換	使用期限を迎えるため交換	交換完了	

14	中学校受水槽給水管凍結修繕	ヒーターの故障により給水管が凍結したことによる修繕	修繕完了	
15	中学校校務用パソコン更新	校務用ノートパソコンのOSアップグレード	整備完了	
16	中学校野球グラウンドブロック造ベンチ解体工事	地震等による倒壊の恐れがあり、解体して撤去	工事完了	
17	中学校職員室等空調設備設置工事	熱中症対策として職員室等に設置	工事完了	
18	中学校教室等空調設備設置工事	熱中症対策として普通教室や特別教室に設置	工事完了	
19	小学校スクールバス業務委託	小学校が統合となり、児童の通学手段としてスクールバスを必要とするため業務委託する。	平成23年4月から学区が村内一円となったため、今後も継続的にスクールバスの運行を業務委託する。	
20	スクールカウンセラー派遣	児童生徒のカウンセリングや教員への指導助言を行う。	不登校や情緒不安定な児童生徒が多いため、これからも継続的に小中学校へスクールカウンセラーを派遣する。	
21	学習支援員及び特別支援教育支援員配置	小中学校に在籍する特別な配慮を必要とする児童生徒の教育活動や学校生活での支援を行う。	学力向上と学習習慣の支援には是非とも必要なことから、今後も継続的に小中学校へ配置する。	
22	奨学金貸与	田舎館村に居住する者の子弟であって就学に意欲があるにもかかわらず、経済的理由によって就学困難な者に対して奨学金を貸与し、有能な人材を育成することを目的とする。	高等学校 月額 10,000 円 高等専門学校、短期大学 専修学校 月額 20,000 円 大学 月額 30,000 円	
23	小中学校各種大会等出場費補助	中体連地区大会・県大会等の各種大会に係る出場費の補助を行う。	定められた基準に基づいて補助金を交付した。	

24	田舎館村教育振興会	学校教育の振興を図るための調査研究等を委託する。	児童生徒の学習と体力に関する調査研究、小中学校教職員の合同研究会や小中学校音楽交流会等を実施している。平成23年4月に小学校が統合して、小学校1校、中学校1校となつてから、年々、小中学校の連携を深めており、小中一貫校に向けて様々な施策等を積極的に展開している。	
25	要保護及び準要保護児童生徒援助費補助事業	学校教育法第19条に基づき、経済的理由により就学困難と認められる児童生徒の保護者に対して就学援助を行う。	要保護児童生徒（生活保護受給者）には、修学旅行費を支給する。準要保護児童生徒には学用品費等、修学旅行費、学校給食費を援助費として支給する。 近年、経済状況の不安定や母子・父子家庭の増加等により、準要保護認定者数も増加傾向にある。このような状況において、財源の確保や認定基準の見直し等、今後の課題も多いが、教育の機会均等の実現を図るため、今後も継続していく必要がある。	
26	特別支援教育就学奨励費補助事業	特別支援学校及び小中学校の特別支援学級への就学の特殊事情を鑑み、これらの学校への児童生徒又は生徒の就学による保護者等の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図ることを目的とする。	特別支援教育奨励費の品目は、学用品費等、修学旅行費、学校給食費を奨励費として支給する。 なお、当事業は国庫補助事業であり、村内で該当する児童生徒が在籍していれば、今後も当事業を積極的に活用していきたい。	

27	第3子以降入学祝金事業	次代を担う子の健全な育成を図るとともに、子育てをする家庭の経済的負担を軽減し、安心して子供を産み、子育てをしたくなるむらづくりを進め、併せて子育て支援の充実を図ることを目的として、村内に住所を有し、小中学校に入学する第3子以降の児童生徒の保護者に対して1人10万円を支給する	小学校 3世帯 中学校 5世帯	
28	第3子以降学校給食費減免事業	保護者の教育費の負担を軽減し、家庭環境の向上と安心して子どもを産み、子育てしやすい環境づくりを進め、子育て支援をすることを目的として、村内小中学校に同一世帯から3人以上就学している保護者に対して、第3子目以降の児童生徒の給食費を減免する	小学校 20人 中学校 1人	

イ 社会教育施設の充実

(ア) 工事業

No.	工 事 名	工 事 内 容	完 了 期 日
1	中央公民館解体工事	中央公民館建替えに伴う旧中央公民館及び車庫倉庫の解体工事	令和2年1月20日
2	車庫及び倉庫建設工事	緊急車両等のための防災車庫及び倉庫の建設工事	令和元年11月20日
3	中央公民館及び村民体育館建設工事	老朽化により建替える中央公民館及び村民体育館の複合型施設の建設工事	令和3年2月10日予定
4	中央公民館建設用地地盤改良工事	基礎工事に伴う重機を搬入させるための地盤を固める工事	令和2年2月12日
5	垂柳遺跡説明板移設・板面製作工事	総合案内所付近に設置した垂柳遺跡指定書の説明書きの文字が消えかけているため、新たに板面を製作するとともに説明板の移設工事	令和元年6月21日
6	エアコン移設工事	中央公民館解体に伴い、村民体育館の2階ミーティング室をシルバー人材センター事務室とするため、中央公民館からエアコンの移設工事	令和元年7月30日

(イ) 施設の利用状況

a 中央公民館

(単位：件、人)

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用件数	694	667	1,056	661	49
利用者数	10,763	10,768	12,318	10,882	898

b 村民体育館

(単位：件、人)

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用件数	724	730	653	658	789
利用者数	12,167	11,656	12,510	12,379	12,311

c 文化会館

(単位：件、人)

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用件数	158	120	132	115	201
利用者数	5,183	4,967	5,802	4,768	6,108

d 克雪トレーニングセンター

(単位：件、人)

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用件数	869	919	954	931	768
利用者数	13,928	14,590	15,045	15,560	11,038

e 埋蔵文化財センター・博物館

(単位：人)

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用者数	4,911	4,080	3,089	3,172	2,920

f 総合案内所（遊稻の館）

(単位：人)

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用者数	5,010	3,866	4,003	2,203	2,386

g 中央公民館図書室蔵書状況（令和元年度）

(単位：冊)

状況等	図書室蔵書数	購入冊数	寄贈冊数	除籍冊数
冊 数	13,961	349	6	2,035

h 中央公民館図書室図書貸出

(単位：人、冊)

年 度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
利用者数	1,414	1,254	1,549	1,581	466
冊 数	4,073	3,273	4,272	4,311	2,070
内児童図書	1,388	776	1,493	1,295	469

ウ 国・県・村指定文化財

No.	名 称	所 有 者	所 在 地	指定年月日
1	史跡垂柳遺跡	田舎館村	垂柳・高樋	H12. 4. 11
2	十一面観音像	田舎館村	田舎館	S37. 6. 29
3	垂柳遺跡出土品	田舎館村	田舎館村埋蔵文化財センター	S46. 5. 6
4	垂柳獅子踊り	垂柳獅子踊り保存会	垂柳	S53. 3. 1
5	田舎館城址	田舎館村	田舎館	S53. 3. 1
6	サイカチ大樹	田舎館村	田舎館	S53. 3. 1
7	二本柳一族の墓碑	諏訪堂地区総代	諏訪堂	S54. 6. 22
8	中村喜時の資料と家筋関係資料	故 中村 壮	堂野前	S54. 6. 22
9	極楽寺大日堂文書	故 岩滝 莊二	田舎館	S54. 6. 22
10	エゾエノキ大樹	熊野宮神社総代	川部	S54. 6. 22
11	嘉暦の古碑	稻荷神社総代	大袋	H 6. 6. 28
12	二津屋の板碑	二津屋地区総代	二津屋	H 6. 6. 28
13	中村喜時著「耕作晰」	田舎館村	田舎館村博物館	H14. 4. 1

(6) 食育の推進

重点 施策	重点項目 (事業名等)	施策・事業の実施状況	実績・成果及び課題や 今後の取組	達成度
1 学校給食 の充実	適切な栄養の摂取によって、健康の保持増進に努める。	1 バランスの取れた学校給食の提供 2 食物アレルギー対応	1 安全で栄養基準を満たした給食の提供に努めた。 2 食物アレルギーを有する児童生徒に対し、小中学校と連携し、保護者と情報の共有を図った。	A
	日常生活における食事についてマナーなど正しい基礎知識を深め、子どもたちが望ましい食習慣が出来るように努める。	1 食育・栄養学習の学校訪問、児童生徒の栄養指導 2 食に関する広報紙等の配布	1 栄養教諭による食育指導を展開し、バランスのとれた食事の大切さや食習慣の知識を深める取り組みをした。 2 給食内容、食事のマナー、旬の食材などの情報を「給食だより」や給食時間の校内放送資料として提供した。	A
	郷土の自然からの恵みや生命の尊さについて感謝する心を育てる。	1 地元食材の利用と郷土食の活用	1 地場産物の利用拡大を図り、郷土料理にふれ、郷土の良さを深め理解できるよう、給食献立にいれたり、「給食だより」等で情報提供をしたりした。	B
	「給食だより」を通して、食料の生産、流通及び消費について理解を深める。	1 食育活動、給食だよりをとおり食料の生産や流通及び消費について理解を図る	1 地元産食材料の供給を優先的に図り、地産地消の充実を行い「給食だより」や食育指導で生産、消費及び流通について情報を提供し、理解してもらう取り組みに努めた。	A
	給食費の未納対策	1 給食費収納業務の効率化及び合理化を図る	1 公平性を損なうことのないよう未納保護者に対し、負担すべき給食費の納入に理解を求め、繰り返し自宅訪問等を行い、粘り強く対応し、未納給食費の徴収業務を行った。	A

4 令和元年度 社会教育関係事業実績

■ 主催事業・・・教育委員会による自主運営、予算付き、国・県による補助金助成事業など

□ 支援事業・・・他団体による運営、予算補助、会場提供、準備協力など

※ 社会教育委員会議 令和元年6月12日、令和2年3月10日

(1) 家庭教育

【重点目標】家庭教育に関するテーマを設定し、子どもの自立を支援していく親の望ましい在り方を学習する機会の提供を行う。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■家庭教育講座	幼児、児童教育を基軸とした広義の「家庭教育」として継続していく。 〈テーマ〉楽しく育児ができるコツ	幼児と保護者	6月29日 2月22日	川部西ヶ丘保育園 畑中保育所	60名 60名

(2) 青少年教育

【重点目標】子どもを中心とした学校外活動を通して、自らを考え、判断し、行動する力を育成する。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■青少年問題協議会	青少年健全育成推進県民会議と連携し、地域の健全育成の啓発事業及び関係団体相互の連絡調整を図る。 青少年健全育成運動啓発事業を開催する。	協議員 (推進員) 小学5年生と保護者	6月6日 2月25日 10月22日	文化会館 文化会館 小学校 体育館	15名 18名 110名
■青少年健全育成推進員	1 日常的巡回指導 (強化月間：夏休み中) 2 朝のあいさつ運動(小・中学校) 今年度は県事業連携で年4回実施 3 有害環境浄化活動の推進 4 声かけリーダー事業への参加	推進員	年間随時 7～10月 4月10日、11日 7月17日、18日 8月27日、28日 11月6日、7日	村内公園他 小中学校	11名 325名
■ひらがな・かきかた教室	現役の書家を招き、ひらがなの書き方を教える。また、コンクールに出品し実力を測る。	小学生	5月25日	文化会館	33名
□子ども会リーダー研修会	青少年施設を利用した体験活動を通して、積極的に活動できるリーダーを育成する。 【例】野外レク等	小学生	7月20日 ～21日	種差少年 自然の家	36名
□子ども会スポーツ大会	スポーツ活動を通して、子ども会会員相互の親睦と子どもの自主的態度の育成を図る。 【例】ドッジボール、ソフトドッジボール	小学生	11月23日	村民体育館	105名
□子ども会雪合戦大会	雪に親しみ、屋外で遊ぶことの楽しさを体験するとともに冬の期間の運動不足の解消を図る。	小学生	1月26日 (中止)	役場東側 水田	

(3) 成人教育

【重点目標】成人教育の一環として地域における学習ニーズに応える。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■成人式	新成人としての門出を祝う。	新成人	1月12日	中学校体育館	74名
■成人教養講座	津軽伝承工芸館から中野もみじ山までウォーキングを行い、参加者の健康意識を高める。	20才～ 65才	10月27日	津軽伝承工芸館～中野もみじ山	8名
	終活講座を通して、今後の生活を深く考える。	20才～ 65才	3月21日 (中止)	文化会館	

(4) 高齢者教育（白寿大学）

【重点目標】高齢者の生活環境の変化や多様化する学習要求に応え、生きがいのある充実した生活を促進する。

事業名	目的・内容	開催期日	場所	参加者
■開講式	開講式(中村公希氏、大澤真弓氏による「特殊詐欺の現状と対策」に関する出前講座)、元年度事業計画の説明、学級委員の選出。	4月24日	文化会館	36名
■教養講座 施設見学	「むつ湾の海」や「海獣館」などを見学し、青森県内外に生息する水生生物について学ぶ。	5月21日	青森市 浅虫水族館	36名
■健康講座 グラウンドゴルフ	グラウンドゴルフを楽しみながら心身をリフレッシュし、健康づくりをする。	6月27日	大鰐町 あじや公園	43名
■健康講座 水に親しむ	海水プールで健康体操を楽しみながら心身をリフレッシュし、健康づくりをする。	7月25日	五所川原市 しーうらんど 海遊館	29名
■学級委員会議	1 年度事業の現状と課題 2 これからの事業について	8月16日	文化会館	12名
■健康講座 自然に親しむ	自然の中で散策を楽しみながら心身をリフレッシュし、健康づくりをする。	9月24日	青森市 野木和公園	25名
■教養講座 施設見学	みその製造工程や県内の米作りの歴史を学び、学習意欲の充実を図る。	10月24日	青森市 かねさ(株) 青森県立郷土館	25名
■健康講座 ユニカール	ユニカールを楽しみながら心身をリフレッシュし、健康づくりをする。	11月28日	村民体育館	26名
■体験学習 そば打ち体験	そば粉と小麦粉を混ぜる作業から切る作業までの一連の作業を体験する。	12月18日	西目屋村 味な工房	14名
■教養講座 講演	工藤廣道氏による「防災講座」をテーマに講演を聞き、災害に対する知識を深める。	1月23日	文化会館	24名
■教養講座 映画鑑賞会	なつかしの映画(ローマの休日)をスクリーンで鑑賞する。	2月27日	文化会館	33名
■閉講式 ■教養講座	閉講式(学長式辞、皆勤者表彰、来賓祝辞) 川口浩一氏「川口浩一の『いきいき健やか』～一病息災～」	3月25日 (中止)	文化会館	

(5) 社会体育(生涯スポーツ)

【重点目標】村民が健康増進と親睦を図るため、各種スポーツ行事を開催し、合わせて生涯スポーツの振興に努める。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■第56回村民体育レクリエーション大会	地区住民が一体となり、スポーツ、レクリエーションを通して、体力づくりと住民相互の親睦を図る。	村民	7月 7日	中学校グラウンド	1,398名
■スキー教室	スキー技術に応じたグループレッスンにより、スキーに親しみ、スキーの基礎の習得と健全な精神、体力づくりと仲間づくりを図る。	小学生	1月 8日	弘前市相馬ロマンチックスキー場	24名
■軽スポーツ講習会	村民への軽スポーツの普及のため、競技方法やルールを学ぶ。 【例】ペタンク等の軽スポーツ	スポーツ推進委員	12月9,16,23日 1月20日 2月3,10日	村民体育館	日平均4名
■スポーツ推進委員派遣	関係団体へ指導者(スポーツ推進委員)を派遣し、軽スポーツの普及を図る。 【例】村PTAスクール(ソフトバレー、カローリング)他	村民	年間	村民体育館他	20名
□第74回 県民体育大会	参加競技：陸上、軟式野球、ソフトボール、バレーボール、卓球、剣道、バスケットボール、バドミントン、テニス、ボウリング、ゲートボール、サッカー、相撲、グラウンドゴルフ 計14種目 結果：町村の部第6位(72.00点)	県民 村内成人	7月27日 ～28日	中南地域各体育施設	200名
□第27回 県民駅伝大会	全9区間(約26.1km) 小学生(男子1区間、女子1区間) 中学生(男子2区間) 中学生以上(女子2区間) 高校生以上(男子3区間) 結果：村の部第3位(1:32:05)	県民 村内小学生～成人	9月 1日	青森市内特設コース	29名
□保育園児童館スポーツ教室(総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会)	村内4ヶ所の保育園と3ヶ所の児童館へ出向き、様々なスポーツ教室(野球、バスケ、サッカー、ラグビー、ヨガ、空手)を実施した。このことで、親による送迎の負担も軽減された。 また、保育園や児童館での活動の幅を増やし、多様な競技を行った。 更には、幼児期、児童期から多くの動きを体験させ、スポーツに関する将来の選択肢を増やすためにも様々な体験の場を設定した。	保育園年長児及び児童館児童クラブ在籍児童	毎月開催の年11回(保育園)冬休み期間及び土曜開催の年4回(児童館児童クラブ)	村内4保育園及び3児童館児童クラブ	延べ352名

(6) 文化活動及び保護、活用事業

【重点目標】 史跡垂柳遺跡が代表するように、本村は古くから稲作文化が連綿と営まれてきた北方稲作文化の地である。歴史ある村に残された文化財を後世に継承するため、地域文化財の保護・保存に努める。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
■田舎館村文化財保護審議委員会	田舎館村に所在する文化財の保護と活用、又は管理に関し、委員会の諮問に答え、意見を具申し、このための必要な調査研究を行う。	委員	5月22日	役場	4名
□田舎館小学校 稲作体験	稲作を通じて、ものづくりの大切さ、厳しさを体験するとともに、米を主産業としている村の歴史や文化への興味や理解を深める。	田舎館小 5年生	5月29日 ～10月9日	総合案内所 (遊稲の館)	延べ 196名

(7) 地域づくり事業

【重点目標】 村づくりの一環として、村民の連携・協力・奉仕の心を培うとともに、地域の環境整備を図る。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所
■全村一斉 空き缶拾い	雪解け後に目立つ道路周辺のゴミや空き缶を拾いながら村内各地域の清掃美化活動を行う。	村民	4月14日	村内各地区 周辺
□コミュニティ推進事業	地域住民が心のふれあいを深め、健康で生きがいのある生活と豊かで住みよいコミュニティ活動事業の促進を目的とする。(平成27年度～令和元年度まで) 1 補助対象団体は地区会(1地区60,000円上限) 2 令和元年度交付団体数 14団体(十二川原、垂柳、田舎館、八反田、畑中、大曲、諏訪堂、大根子、川部・和泉、前田屋敷・土矢倉、堂野前、新町、二津屋、高田)			

(8) その他

公民館関連の開催事業ではないが、村内諸団体の開催事業で、間接的に協力している。

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
□第17回栃ノ海杯 争奪相撲大会	個人戦：小学生一学年別男女別 中学生一学年別 団体戦：予選、決勝トーナメント	村内外 小中学生	7月21日	村民相撲場	220名
□田舎館城下クロスカントリーリレー大会兼第22回全国小学生クロスカントリーリレー研修大会 青森県予選会	全6区間(1区間1.5km) 団体：チーム対抗 クロスカントリーリレー 女子(1・3・5区) 男子(2・4・6区) 個人：タイムトライアルレース	村内外 小学生 5～6年	10月13日	役場周辺 特設コース	150名

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所
□田植え体験ツアー	紫稲・黄稲・あさゆき等で稲文字や図柄（おしん）の形に手植えをする。	村内外	5月26日	役場東側水田
□稲刈り体験ツアー	田んぼアート会場の稲を手作業で稲刈りをする。	村内外	9月29日	役場東側水田
□収穫感謝祭	1 村文化団体の作品展示 2 健康展 3 無料映画上映 4 芸能発表等	村内外	11月16日 ～17日	役場 文化会館
□シクラメン市	5 シクラメンの販売			村民体育館

事業名	目的・内容	対象	開催期日	場所	参加者
□指定管理委託事業	博物館、埋蔵文化財センター、総合案内所(遊稲の館)施設の管理・運営及び史跡垂柳遺跡の環境整備を委託している。 また、稲作体験などの継続事業及び民間活力を導入した諸事業を実施した。 【例】 稲作体験、正月飾り教室、花嵐桜組ライブなど	村内外	随時	埋蔵文化財センター・遊稲の館他	各事業 延べ 参加者 790名

0

1000